

「V着」と〈Vテイル〉の対照研究（四）

時 衛国

外国語教育講座

A Contrastive Study of “Verb + Zhe” and “Verb + Teiru” (IV)

Weiguo SHI

Department of Foreign Languages, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

要 約

本研究は中国語の「V着」と日本語の〈Vテイル〉¹⁾について、これまでの研究を踏まえながら、ヴォイスとの関係を中心に考察したものである。使役表現と受動表現に用いられ、動的状態と静的状態の持続を表現することができるという点では、両語は大体共通しているが、しかし、可能表現に用いられず、可能な状態の有様を描写することができないという点では、「着」は〈テイル〉と違っている。

「着」は、使役表現と受動表現のいずれも表現することができて、仕手から受け手に向けられた行為の動的状態と静的状態の持続を表わすことができるが、対象への把握の視野は制限されている。それに対し、〈テイル〉は、使役表現と受動表現と使役受動表現と可能表現のいずれも視野に入れ、さらに動的状態の各局面も対象とすることができるから、各種表現の組織体系を識別し、その機能を十分に働かせることができると言える。

Keywords : 動的状態の持続、静的状態の持続、ヴォイス

I. はじめに

中国語の「着」と日本語の〈テイル〉²⁾はアスペクト辞として、いずれも使役表現、受動表現などと共起し、動的状態と静的状態の持続を表現することができる。たとえば、

- (1) 群山被雪覆盖着。(山々が雪に覆われている)³⁾
- (2) 山々は雪に覆われている。
- (3) ×她能游着两个小时。(「彼女は二時間くらい泳げている」の意)
- (4) 彼女は二時間泳げている。

のように受動表現に用いることができるという点では、両語は大体共通しているが、しかし、(3)のように可能表現に用いることができないという点では、「着」は〈テイル〉と違っている。

「着」と〈テイル〉はヴォイスとの関わりについて、どのような表現と共起し、どのような表現と共起できないのか。そして、使役表現や受動表現における動的状態と静的状態の持続を捉えるとき、両語はどのよう

な共通点と相違点があり、それぞれどのような特色を持っているのか。

本研究は、先行研究を踏まえながら、「V+着」と〈V+テイル〉とヴォイスとの関係について考察し、その共通点と相違点を明らかにしたいと思う。両語とヴォイスとの関係を明らかにすることができれば、両言語の持続を表わすアスペクトとヴォイスとの関連の実態が認識することができるようになり、また両言語のそれぞれの性質・特徴なども把握することができるようになる。

なお、日本語ではヴォイスには自発態も含まれるものと思われるが、中国語には自発態というものがないこともあり、今回の考察から自発態を除外することとする。

II. 先行研究

「着」と〈テイル〉については、これまで多くの論考が発表され、いずれも豊富な成果の蓄積がある。

「着」については、北京大学中文系1955・1957级语言班編(1982)《現代汉语虚词例释》、木村英樹(1982)、

呂叔湘主编 (1984)、李临定 (1986)、費春元 (1992)、戴耀晶 (1994・1997)、陸儉明 (1999)、石毓智 (2006)、王学群 (2007)、張黎 (2012)、三宅登之 (2013) などがそれである⁴⁾。これらの業績をまとめてみると、「着」が動作の進行、状態の持続を表わすという点については多くの先行研究が指摘している。一方、高橋弥守彦 (2012)・(2013a、2013b)、張岩紅 (2012)、李所成 (2012) などは中国語と日本語のヴォイスについて比較対照しているが、ただ「着」と〈テイル〉とヴォイスとの関係については述べていない。これらの研究は「着」の意味機能・文法的特徴を知るのに有益であり、評価されるものであるが、しかし、「着」とヴォイスとの関係についての論考はまだ未見である。

日本語の〈テイル〉については、これまで立派な業績が蓄積されている。金田一春彦 (1950)、寺村秀夫 (1973)、鈴木重幸 (1976)、藤井正 (1976)、吉川武時 (1976)、奥田靖雄 (1977)、仁田義雄 (1982)、工藤真由美 (1982)・(1995) などは評価されるものとして注目されている。金田一春彦 (1950) における〈テイル〉をつけることができるかどうかという基準による継続動詞 (「読む」「書く」など) と瞬間動詞 (「死ぬ」「消える」など) の分類は、〈テイル〉の意味機能を考察する時に参考になるものである。奥田靖雄 (1977) では、〈テイル〉の表わす「動作の継続」と「変化の結果の継続」というこの二つの意味は「継続」としている。仁田義雄 (1982) では、主体運動と主体変化の観点から〈テイル〉を捉え、前者を動作の進行、後者を結果の残存としている。

従来における「着」と〈テイル〉は動作の進行や状態の持続を表わすという点で共通している。動きの状態を「動作の進行」とする観点と「動作の継続」とする観点については、どちらも動作が進行中で、まだ終了しておらず持続していることを指すものと理解できる。また、動詞の結果の残存とするという観点についても、進行中で終了しておらず持続している状態を表わすという点においては、「動作の進行」「動作の継続」の場合と同じである。どちらも持続を表現していることを核心的な意味としている。

Ⅲ. 分析

3.1. 使役表現の場合

「着」と〈テイル〉はどちらも使役表現に用いることができるという点では共通しているが、始動・連続の二局面を捉えて使役表現にも用いることができるという点については、両語は大きく違っているところがある。たとえば、

- (5) 老师让学生做着练习题。(先生は学生に練習問題の解答をやらせている)

- (6) 先生は学生に練習問題の解答をやらせている。⁵⁾
 (7) ×老师让着学生做练习题。(「先生は学生に練習問題の解答をやっている」の意)
 (8) ×先生は学生に練習問題の解答をやっている。

中国語では、使役表現の場合、介詞 (助詞相当) の「使 (shi)」「叫 (jiao)」「令 (ling)」「让 (rang)」 (いずれも日本語の使役助動詞「セル・サセル」に相当) など⁶⁾ を使って、「使役者+使/叫/令/让+被使役者+動詞」の構造で、仕手がある行為を受け手に行わせることを表わす。(5) は、仕手としての教員が、受け手としての学生に、練習問題を課しているということを示している。その場合、「着」は、教員の指示によって学生が練習問題をやっているという動的状態の持続を強調し、実際の動作主は命令者の教員ではなく、受け手の学生だということを明示している。つまり、教員の指示に従う学生が練習問題の解答をやっているということになる。「着」は「学生做着练习题 (学生が練習問題をやっている)」という形でわかるように、指示による動作主の動的状態の持続を表わしている。(5) では、教員の指示による行為は示唆されているものの、指示者自身の動的状態が持続していることを表わしているのではない。「着」は (7)⁷⁾ のように指示者自身の動的状態の持続を捉えることができない。使役表現の場合、「着」は「仕手+让+受け手 (動作主)+動作+着」という構造に用いられ、動作主の動的状態の持続を捉えるだけにとどまり、仕手の動的状態を視野に入れることができない。

日本語では、周知のとおり、自動詞の場合は「使役格 (ガ)+被使役格 (ニ/ヲ)+使役動詞」のように、そして他動詞の場合は「使役主格 (ガ)+被使役格 (ニ)+使役動詞」のように構成される。〈テイル〉は (6) のように教員の指示による学生の動的状態が持続しているという形になることができる。(6) の基本文は「学生が練習問題の解答をやる」という動的状態であり、教員が指示を出しているという動的状態の持続を視野に入れず、学生が練習問題の解答をやっているという動的状態の持続だけを視野に入れている。つまり、指示者の意志による動作主の動的状態の維持を継続させているということである。この種の使役表現は〈テイル〉との共起により、動作主が行なっている動的状態が指示者 (使役主格) の支配下に置かれ、指示者の意志がその動的状態の一部始終を貫いているという特徴があると考えられる。しかし、この点については従来の研究ではあまり指摘されていない。ところが、(8) のように「学生が練習問題の解答をやっている」という動的状態の持続を目的に、使役者がその目的の実現を意図的に働きかけているということを表わすことができない。

〈テイル〉はまた (9) (10) のように、「動詞+局面動

詞＋使役形＋テイル」という構造に用いられ、始動・連続の二局面を動的状態の持続という観点から捉えることができる。たとえば、

- (9) 先生は学生に練習問題の解答をやり始めさせている。
 (10) 先生は学生に練習問題の解答をやり続けさせている。
 (11)??先生は学生に練習問題の解答をやり終わらせている。

〈テイル〉は学生が練習問題の解答をやり始めたり、やり続けたりしていることを表わし、被使役者に対して、二局面の発動を仕向けるように示唆している。(9)は使役者による始動の局面の発動を働きかけており、その動的状態における始動の持続を捉えている。そして、(10)は使役者による連続の局面の持続を示し、その動的状態の連続性を捉えている。この中で、始動の局面は点的な存在として捉えられ、動的状態の持続を表わすという点では共通しているが、線的な存在として捉えられる連続の局面とは違っている。使役表現の場合、始動・連続二局面に強制的な意味が加えられているという点では、共通している。

ところが、終結の局面の場合は、点的な存在として〈テイル〉によって捉えられるはずだが、結果を表わすという側面と指示を表わすという側面が融合しにくいと思われる。始動の局面の発動はその動的状態の持続を確保することになるから、〈テイル〉はその持続を示唆している。一方、連続の局面の発動はその動的状態の持続を維持することになり、〈テイル〉はその線的な存在としての動的状態の連続性を示している。それに対し、終結の局面の発動は意欲的な持続を停止させるということになるが、その結果を表わす側面とその発動を表わす側面が矛盾してしまうから、〈テイル〉はその結果としての静的状態の持続を捉えることができない。たとえば、(11)は使役者による終結の局面の発動を仕向けており、その動的状態における終結の局面の持続と強制発動的な局面の発動が並立しにくいものと考えられる。

一方、〈テイル〉は(12)(13)のように「動詞＋使役形＋局面動詞＋テイル」の場合も捉えることができる。この場合も使役者による二局面の発動の持続を強調しているものと考えられる。

- (12) 先生は学生に練習問題の解答をやらせ始めている。
 (13) 先生は学生に練習問題の解答をやらせ続けている。
 (14)??先生は学生に練習問題の解答をやらせ終わっている。

〈テイル〉は「動詞＋局面動詞＋使役形＋テイル」の場合は、(9)(10)における「やり始めることをさせている」「やり続けることをさせている」のように、被使役者の各局面の発動を端的に強調し、被使役者の動的状態における局面の持続を表わしているのに対し、「動詞＋使役形＋局面動詞＋テイル」の場合は、(12)(13)における「やらせることを始めている」「やらせることを続けている」のように、使役者の各局面への支配を強調し、各局面の持続の状態を明示している⁸⁾。(14)は「やらせることを終了させている」という意味を表わすが、「動詞＋局面動詞＋使役形＋テイル」の場合と同じように、終結の局面の発動と強制的使役が並立しにくいと、自然な表現としては考えられない。

〈テイル〉は始動・連続の二局面を捉える使役表現にも用いることができるという点では、「着」と違っている。また、「重要法案を成立させている」「改革を成功させている」のように、動的状態実現後の結果としての静的状態の持続を表わすことができるという点においても「着」と違っている。「着」は「×(本届国会)使重要法案成立着(「(今期の国会は)重要法案を成立させている」の意)」「×使改革成功着(「改革を成功させている」の意)」のように、使役表現における静的状態を表現する働きを付与されていない。それで、「了(た)」「过(たことがある)」などによって、「(本届国会)使重要法案成立了((今期の国会は)重要法案を成立させている)」「使改革成功了(政府は改革を成功させている)」のように、使役表現の実現を表わすことになる。ただ、「了」は実現を表わすだけにとどまり、実現後の結果としてのその静的状態の持続を表わすということではない。

3.2. 受動表現の場合

「着」と〈テイル〉はいずれも受動表現と共起することができるという点では共通しているが、共起範囲が制限されているという点では差異がある。

- (15) 群山被雪覆盖着。〈= (1)〉
 (16) 山々は雪に覆われている。〈= (2)〉
 (17) 犯人被警察拽着。(犯人は警察に引っ張られている)
 (18) 犯人は警察に引っ張られている。
 (19)×朋友被老师表扬着。(「友達は先生に褒められている」の意)
 (20) 友達は先生に褒められている。

「着」は(15)では「雪に覆われている」という静的状態の持続、(17)では「警察に引っ張られている」という動的状態の持続を表わしている。中国語の受動表現は下記の①②③の方法から構成されている。

- ①介詞（助詞相当）を使って、「受け手+被/叫/让/给+仕手+動詞+その他の成分」という構造
- ②意味上の受動表現として、「受け手+（仕手+）動詞+その他の成分」という構造
- ③語彙上の受動表現として、「受け手+受到（受ける）+仕手+動詞」という構造⁹⁾

(15) (17) は①の方法で表現されているが、「群山被覆盖着（山々が覆われている）」「犯人被拽着（犯人が引っ張られている）」のように、②の方法によっても表現することができる。一方、③は受動を表わす語句によって構成されている。そして、①②③は表現形式は異なるものの、いずれも受け手が仕手によってある動作・行為の影響を受けるということを表わすという点では共通している。

「着」は、受動表現における動的状態と静的状態をいずれも表現することができる。たとえば、「覆盖（覆う）」「笼罩（立ちこめる）」「掩盖（覆い隠す）」「遮挡（遮る）」「包围（包囲する）」「环绕（取り巻く）」「吸引（引き付ける）」「铐（（手錠を）はめる）」などの動詞は、受動表現に使われる場合、静的状態を表わすことになるが、「拽（引っ張る）」「拉（引く）」「拖（引き摺る）」「搀（体を支える）」「领（連れる）」「牵（引く）」「牵引（牽引する）」「推搡（押し合う）」「挠（搔く）」「揪（掴んで引く）」「抓（（手で）つかむ）」「按（押える）」などの動詞は、動的状態を表わすことになり、相手に対し物理的にそして肉体的に何らかの影響を与える場合に用いられることになる。

一方、「表扬（ほめる）」「批评（批評する）」「淘汰（淘汰する）」「开除（除名する）」「解雇（解雇する）」「证明（証明する）」「采纳（受け入れる）」「吹（吹く）」「说（話す）」「吃（食べる）」「看（見る）」「玩（遊ぶ）」「拿（（手に）持つ）」「走（歩く）」「跑（走る）」「做（やる）」「叫（呼ぶ）」などの動詞は、受動表現には用いることができるものの、(19) のように「着」によっては表現することができない。「朋友被老师表扬了（友達は先生にほめられた）」「朋友被老师表扬过（友達は先生にほめられたことがある）」のように、「了」「过」などの助詞によっては表現することはできる。しかし、「着」は「了」「过」における総括性が付与されていないため、受動表現ではこのような動的状態を表わす動詞によって表現することができない。

「着」は、このように、「覆盖（覆う）」のような静的状態を表わす動詞と「拽（引っ張る）」のような動的状態を表わす動詞とは共起することができるが、しかし、「表扬（ほめる）」「跑（走る）」のような動詞の中で大多数を占める行為・動作を表わす動詞とは共起することができない。それで、「着」は受動表現に用いられる場合、主として限られた動的状態と静的状態しか表現することができず、一般的な動的状態や静的状

態を視野に入れることができないと考えられる。また(19)が成立しないということから、受動表現では、動詞に対しては選択性があると言える。

李珊（1994）では「着」については、動作が進行中であることを表わすと同時に、動作が完了した後の持続の状態をも表わすと考えている。たとえば、「剪着头发（髪の毛を切っている）」「睡着一条大狗（一匹の犬が寝ている）」などがそれである。受動表現では「着」は動作が進行中という意味を表わすことが少なく、持続の状態という意味を表わすことが多い、つまり動作が完了した後の状態を表わすことが殆どであり、文法上、目的語を取ることができない。何千個もの例文を検索し調べた結果、目的語を取ることができないだけでなく、目的語に準ずる語句でも「着」の後に現れないと述べている（P 86～87）¹⁰⁾。

しかし、受動表現では「着」は動作が進行中という意味を表わすことが少なく、状態が持続中という意味を表わすことが多い、つまり動作が完了した後の状態を表わすことが殆どであり、文法上、目的語を取れないという記述は不適切である。筆者の見解を示すと、「着」は上述の通り、受動表現の場合、動的状態（李1994における「動作が進行中」という意味に相当）も、静的状態（李1994における「状態が持続中」という意味に相当）も表現することができる。また、「犯人被警察拽着衣服（犯人は警察に着物を引っ張られている）」「弟弟被哥哥拽着胳膊（弟は兄に腕を引っ張られている）」のように目的語を取ることでもできる¹¹⁾。

李敏1998では能動表現と対応する受動表現における、主語と述語の文中における位置の相互移動について次のように述べられている。主語は通常場所を表わす名詞であり、それと動詞の間には意味的に受け手と動作の関係があり、目的語は仕手あるいは（動作・行為の）道具と理解されるので、「被」に置き換えることのできる文もある。「大楼笼罩着晨雾（ビルに朝の霧が立ちこめている）→大楼被晨雾笼罩着（ビルは朝の霧に立ち込められている）」「大地覆盖着白雪（大地を雪が覆っている）→大地被白雪覆盖着（大地は雪に覆われている）」。しかし、この受動表現は元の能動表現ほど自然ではない。というのは、普通、動作動詞が受動表現に使わなければならないからである¹²⁾。

日本語では、受動表現は動詞の未然形に「レル・ラレル」を付けて作られ、直接受動文と間接受動文に分類される（赤羽根義章1997、大島資生1997¹³⁾、山口佳也2002¹⁴⁾参照）。直接受動文は、主体がある動作・作用の影響を直接に受けることを表わす表現であるのに対し、間接受動文は、主体がある動作・作用の影響を間接に受けることを表わす表現である。(16) (18) (20) は直接受動文であり、その基本文は「雪が山々を覆っている」「警察は犯人を引っ張っている」「先生は友達を褒めている」と考えられる。一方、間接受動文は「子

どもに泣かれている」「雨に降られている」のようになっている¹⁵⁾。

〈テイル〉は直接受動文にも間接受動文にも使用することができる。(16)では雪に覆われているという静的状態の持続を表わすが、(18)は警察に連行されているという動的状态の持続を表わす。それに対し、(20)は先生に褒められているという動的状态とも静的状態とも言える表現であり、〈テイル〉によって表現することができる。つまり、動作の進行中とも動作完了後の結果とも考えられる場面についても表現することができる。

上述の「着」によって表現することができない中国語の「批評（批評する）」「淘汰（淘汰する）」「开除（除名する）」「解雇（解雇する）」「证明（証明する）」「采纳（受け入れる）」「吹（吹く）」「说（話す）」「吃（食べる）」「看（見る）」「玩（遊ぶ）」「拿（（手に）持つ）」「走（歩く）」「跑（走る）」「做（やる）」「叫（呼ぶ）」などの動詞に対応すると見られる日本語の「批評する」「淘汰する」「除名する」「解雇する」「証明する」「受け入れる」「吹く」「話す」「食べる」「見る」「遊ぶ」「（手に）持つ」「歩く」「走る」「やる」「呼ぶ」などの動詞は、受動表現の場合、いずれも〈テイル〉によって表現することができる。このように考えると、〈テイル〉は「着」より視野が広く、受動表現における動的状态と静的状態はもとより、(20)のような同じ事象の動的状态と静的状態のいずれの面からも用いることができる。

〈テイル〉は「動詞未然形+セル/サセル+レル/ラレル」からなる使役受動文にも用いることができる。使役受動文は主語がある動作・行為を仕方なく行っていることを示唆し、自らの自発的行為ではなく、行なわざるを得ない状況にあるということを示している。たとえば、

- (21) 新人社員は社長に言われたまま、残業させられている。
 (22) 彼は駐車違反をしたので、始末書を書かされている。
 (23) この部員は走り続けさせられている。

使役受動文は受け手に被害意識を生じさせるという点については、これまで指摘されているが、しかし、受け手が仕手の命令や指示に従わざるを得ないという前提下に置かれているという点についてはあまり述べられてない。上述の受動文は、受け手が仕手による動作・作用の影響を、直接、または間接に受けることを表わし、受け手が仕手の行為による影響を受けていることだけを強調している。それに対し、使役受動文は、仕手の意思や命令にやむを得ず従い、ある動作を自ら行なうことを表わし、被害を受けているが、強制され

るという状況のもとで仕手の意思や命令に絶対服従するということを示唆する。また、使役受動文は客観的な描写として用いられているので、日本語らしい表現とされている¹⁶⁾。〈テイル〉は(21)(22)(23)のように動的状态の持続を表わす他、また、「彼は車を遠くの駐車場に停めさせられている」のように静的状態の持続も表わすことができる。

中国語では、(21)(22)(23)のような使役受動文に対応する文型は有していないものの、「被迫（仕方なく）」という副詞によって表現することができる。この場合は「着」も共起することができる。たとえば、

- (24) 新社員按照社长吩咐被迫加着班。(新社員は社長に言われたまま、残業させられている)
 (25) 他违法停车、被迫写着书面检查。(彼は駐車違反をしたので、始末書を書かされている)
 (26) 这个队员被迫连续奔跑着。(この部員は走り続けさせられている)

などがそれである。

このように受動表現に用いることができるという点では、「着」と〈テイル〉は共通しているが、多様な受動表現に使用し、動的状态の持続も静的状態の持続も表現することができるという点では、〈テイル〉は「着」と異なっている。

3.3. 可能表現の場合

「着」と〈テイル〉は可能表現と共起することができるかどうかという点では大きく違っている。

- (27) ×这个高中生会看着英文小说。(「この高校生は英語の小説が読めている」の意)
 (28) この高校生は英語の小説が読めている。
 (29) ×这个大学的女学生都能弹着钢琴。(「この大学的女子学生はみんなピアノが弾けている」の意)
 (30) この大学的女子学生はみんなピアノが弾けている。

「着」は可能表現に用いることができない。中国語では、可能表現に用いられる可能動詞として「会(～できる)」「能(～できる)」がある。「会」は主として、勉強によってある技術や能力が身につくことを表わす。たとえば、「他会开车(彼は車が運転できる)」「我会游泳(私は水泳ができる)」という場合は、彼が車を運転できる、私が水泳ができるという意味で、それぞれその技能を持つことを表わす。

一方、「能」は身についた技能や技術を発揮することができる状況にあることを表わす。たとえば、「他能开车(彼は車が運転できる)」「我能游泳(私は水泳ができる)」という場合は、車が運転できることと泳げるこ

との技能が持たれているということが前提になっており、その実力を発揮することができる状況にあったりすることを強調する。

「会」は学習や訓練によってある技術・能力が身につくことを表わし、その結果、そのような技術・能力によって何か「できる」ということを表わし、「能」は既に身につけている技術・能力によって何か「できる」ということを強調する表現である。それに対して、「着」は「会」「能」と結合して表現することができないのである。つまり、中国語の「着」は可能表現における動的状態も静的状態も対象として表現する用法はないのである。「会」「能」が技術・能力を身に付けて、その技術・能力によって「～できる」という可能表現をする場合、「着」によって動的状態も静的状態も表現することができないのである。

日本語では、〈テイル〉は可能表現に接続し、様々な可能な状態を表現することができる。日本語の可能表現は、「動詞の未然形+レル/ラレル」「可能動詞（読める、話せる、書ける）」「ラ抜き言葉（食べれる、見れる、来れる）」「サ変動詞語幹+デキル」「動詞連体形+コトガデキル」「動詞連用形+ウル/エル」などから構成されている。主として能力の具有、能力発揮の範囲を表わす。たとえば、「車が運転できる」「英語の小説が読める」は能力の具有を、「今日は泳げる」「今日はピアノが弾ける」は能力発揮の可能を表わす。

日本語の可能表現は静的状態の一種として、物事の評価や描写に用いることができる。しかし、着眼点は主として技術・能力の具有や発揮にあり、そのありさまへの細かな描写はできない。そして、〈テイル〉は可能表現に使われる場合、静的状態を鮮明に描写することができるという働きを持っており、変化の途中にある過度的な能力への評価を表わすことになる。

たとえば、(28)では「この高校生は英語の小説が読める」は、この高校生の英語の小説への読解力の具有を表わすだけであり、その読解力の具有のありさまを具体的には示していない。そして、「読めている」となると、英語の小説が閲読できるという過渡的な能力の具有のありさまを鮮明に描写することができる。

また、(30)では、みんなピアノが弾けるというこの大学の女子学生の技能の具有のありさまは〈テイル〉によって描写されている。このように〈テイル〉が可能表現について描写の機能を持っているという点については、従来の研究では指摘されていない。可能表現を静的状態の一種として捉えることができるということは、〈テイル〉の文法的機能のひとつと考えられる。

金田一「国語動詞の一分類」1950では日本語の動詞について〈テイル〉を付けることができるかどうか、そして〈テイル〉を付けると、動作・作用が進行中であることを表わすかどうかという基準で、「状態動詞（「ある」「できる」など）」「継続動詞（「読む」「書く」

など）」「瞬間動詞（「死ぬ」「結婚する」など）」「第四種の動詞（「優れる」「聳える」など）」の四種類に分類されている。この中で、「状態動詞」は〈テイル〉を付けることができない動詞として分類されている。そして、金田一氏は「状態動詞」について次のように述べている。

〔一〕「状態動詞」「ある」（「机がある」「本箱がある」の「ある」）、同じく「ある」（「我輩は猫である」などにおける）、「ござる」（例「次は銀座四丁目でございます」）。可能を表わす「出来る」（「英語の会話が——」「行くことが出来ない」はこの例、「恋人が——」「ここにおできが——」のような成立を表わす「出来る」は（三）の瞬間動詞に属する）。所謂可能相動詞は全部この中に入る。例えば「切れる」（例「このナイフはよく——」）、「話せる」（例「親爺なかなか——」）。最初に挙げた「理解できる」の意の「分る」もこの種に入り、「——ている」をつけずにそのままで現在の状態を表わす（p 7, p 9, p 10）¹⁷⁾

金田一氏の分類に出てきた「英語の会話が——」における「できる」や可能相を表わす動詞「切れる」「話せる」などは〈テイル〉をつけることができない状態動詞として分類されているが、しかし、可能を表わす「できる」や可能動詞などは前述のとおり、いずれも〈テイル〉をつけることができる。アンケート調査の結果によっても、日本語の可能表現は〈テイル〉と共起することができるということが実証できる。これは〈テイル〉の時代の発展に伴っての変化とも言えよう。それで、〈テイル〉をつけることができるかできないかという、〈テイル〉による動詞の分類基準について述べる際には、金田一氏の提唱した「状態動詞」の中から「できる」や可能動詞をはずすべきなのではないかと考えている。

このように可能表現に用いられ、主として静的状態の持続を表わし、そのありさまを鮮明に描写することができるという点では、〈テイル〉は「着」と大きく違っている。

IV. まとめ

使役表現は主として、仕手から受け手に向けられた行為の動的状態を表わし、仕手と受け手の存在が前提になっているのに対し、可能表現は動作主の能力の有様や状況を客観的な描写によって表現し、主に静的状態を表わす用法である。一方、受動表現は、いずれも動的状態と静的状態を表わすことができるという点では、使役表現とも可能表現とも異なっている。受動表現は受け手が動かされる対象として存在するという点では、仕手と受け手を並立させている使役表現とは反

対になっている。

使役表現と受動表現に用いられ、動的状態と静的状態の持続を表現することができるという点では、両語は大体共通しているが、しかし、可能表現にも用いられ、可能な状態の有様を描写することができるという点では、「着」は〈テイル〉と違っている。

「着」は、使役表現と受動表現のいずれも表現することができて、仕手から受け手に向けられた行為の動的状態と静的状態の持続を表わすことができるが、対象への把握の視野は制限されている。動的状態の各局面への把握はもとより、可能表現についても視野に入れることができない。

〈テイル〉は、使役表現と受動表現と使役受動表現と可能表現のいずれも視野に入れ、さらに動的状態の各局面も対象とすることができるから、各種表現の組織体系を識別し、その機能を十分に働かせることができると言える。その上、様々な事象に対しては強い描写性が付与されていると言える。

注

- 1、 筆者は中国語の「V着」と日本語の〈Vテイル〉について継続的に考察してきた。拙稿論文2014aでは、能動表現における二語の対応関係について、同2014bでは二語と量的表現との共起関係について、そして、同2014cでは二語の運動と存在を表わす場合を中心に考察した。詳しくは拙稿論文を参照されたい。
- 2、 本研究では中国語の考察語は「 」、日本語の考察語は〈 〉で示すが、短文を並べるときには「 」を使う。以下同じ。
- 3、 例文の中では考察語の「着」と〈テイル〉については下線を引く。以下同じ。
- 4、 「着」についての先行研究は、他にもあるが、ここでは代表的なものだけを挙げておく。
- 5、 ここに挙げた日本語の例文についてはアンケート調査を実施した。参考のため、アンケート調査の結果を後に示しておく。
- 6、 中国語では「使」「叫」「令」「让」は介詞として分類され、使役表現に用いられる。その働きは日本語の使役助動詞〈レル〉〈ラレル〉に相当すると考えられる。
- 7、 中国語の例文については筆者の内省によるものである。
- 8、 使役受動表現については本研究の3.2. において述べることにするので、参照されたい。
- 9、 高橋2013は「被」語句の「受身の結び付き」と文中における語順について考察している。詳しくは同氏の論文を参照されたい。
- 10、 ここでは、受動表現における「着」と関係のある内容だけを取り上げる。詳しくは氏の著書を参照されたい。
- 11、 李氏も進行の意味を表わすとする目的語を取った例として、「下車的人被红卫兵揪着头发，按着脖子（下車した人は紅衛兵に髪の毛を引っ張られ、頭を押えられていた）」という例文を示している。同P 88を参照されたい。
- 12、 詳しくは《语言教学与研究》1998年第4期P 55を参照されたい。
- 13、 詳しくは小池清治・小林賢次・細川英雄・犬飼 隆編集

1997『日本語学キーワード事典』P 27、28とP 30、31を参照されたい。

- 14、 詳しくは小池清治・小林賢次・細川英雄・山口佳也編集2002『日本語表現文型事典』P 25～27を参照されたい。
- 15、 中国語では間接受動文というものがない。「子どもに泣かされている」は「孩子哭着（子どもが泣いているから～）」、「雨に降られている」は「被雨淋湿了（雨に濡れている）」のように訳される。
- 16、 使役受動表現は日本語らしい表現として認められるという点については、小池清治・小林賢次・細川英雄・山口佳也編集2002『日本語表現文型事典』にも指摘がある。
- 17、 詳しくは金田一春彦1950を参照されたい。

◎ここに挙げた日本語の例文がセンテンスとして成立するかどうかについて、日本人話者（年齢18歳～20歳、いずれも国立大学の在学学生である）にアンケート調査を実施して判定していただいた。

調査の基準は以下の通りである。日本語として非常に自然だと思うものは〈○〉、やや不自然な感じがするものは〈?〉、日本語としては非常に不自然でほとんど言わないと思うものは〈??〉、そして絶対誰も言わないと思うものは〈×〉と記入するように依頼した。以下それぞれその結果を示す。

- (1) 先生は学生に練習問題の解答をやらせている。
〔回答者31名：○30人 ?1人 ??0人 ×0人〕
- (2) 先生は学生に練習問題の解答をやっていさせる。
〔回答者31名：○0人 ?2人 ??6人 ×23人〕
- (3) 母は私に部屋を掃除させている。
〔回答者31名：○26人 ?4人 ??1人 ×0人〕
- (4) 母は私に部屋を掃除していさせる。
〔回答者31名：○0人 ?0人 ??0人 ×31人〕
- (5) 先生は学生に練習問題の解答をやり始めさせている。
〔回答者16名：○8人 ?3人 ??2人 ×3人〕
- (6) 先生は学生に練習問題の解答をやり続けさせている。
〔回答者16名：○10人 ?3人 ??3人 ×0人〕
- (7) 先生は学生に練習問題の解答をやり終わらせている。
〔回答者16名：○1人 ?5人 ??5人 ×5人〕
- (5) 母親は子供にアイスクリームを食べさせている。
〔回答者31名：○28人 ?1人 ??2人 ×0人〕
- (6) 相手に辛い料理を食べさせている。
〔回答者31名：○25人 ?4人 ??1人 ×1人〕
- (7) 相手に辛い料理を食べていさせる。
〔回答者31名：○0人 ?3人 ??5人 ×23人〕
- (8) 彼は授業中携帯をいじったため、先生に注意されている。
〔回答者31名：○27人 ?2人 ??2人 ×0人〕
- (9) 友達は先生に褒められている。

- [回答者31名:○31人 ?0人 ??0人 ×0人]
 (10) 泥棒は警察に捕まえられている。
 [回答者31名:○15人 ?11人 ??4人 ×1人]
 (11) 彼は髪のことので附属中学校での実習を止めさせられている。
 [回答者31名:○19人 ?5人 ??5人 ×2人]
 (12) 彼は駐車違反をしたので、始末書を書かされている。
 [回答者31名:○30人 ?1人 ??0人 ×0人]
 (13) 学生達は黒板に字を書き始めさせられている。
 [回答者31名:○7人 ?14人 ??7人 ×3人]
 (14) この部員は走り続けさせられている。
 [回答者31名:○16人 ?13人 ??0人 ×2人]
 (15) この政治家は問題発言をしたので、議員辞職をさせられている。
 [回答者31名:○16人 ?9人 ??3人 ×3人]
 (16) 新人社員は社長に言われたまま、残業させられている。
 [回答者31名:○27人 ?3人 ??1人 ×0人]
 (17) この小説は登場人物についてよく描けている。
 [回答者31名:○30人 ?0人 ??0人 ×1人]
 (18) このクラスではA子は英語を一番上手に話せている。
 [回答者31名:○21人 ?7人 ??3人 ×0人]
 (19) この高校生は英語の小説が読めている。
 [回答者31名:○15人 ?12人 ??4人 ×0人]
 (20) この大学の女子学生はみんなピアノが弾けている。
 [回答者31名:○16人 ?13人 ??2人 ×0人]
 (21) うちの子供は全員車の運転ができています。
 [回答者31名:○15人 ?14人 ??2人 ×0人]
 (22) 彼女は二時間泳ぐことができています。
 [回答者31名:○13人 ?15人 ??3人 ×0人]

参考文献

- 中国語
 北京大学中文系1955・1957級語言班編1982《現代漢語虛詞例釋》商務印書館
 陈 平1988「論現代漢語時間系統的三元結構」《中國語文》第六期
 戴耀晶1994「現代漢語持續體“着”的語義分析」邵敬敏主編《九十年代的語法思考》商務印書館
 戴耀晶1997《現代漢語時體系統研究》浙江教育出版社
 費春元1992「說“着”」《語文研究》第二期
 高橋弥守彦2012「“被字句”の語順について」『日中言語対照研究論集』第14号 日中対照言語学会
 高橋弥守彦2013a「中国語受身表現の体系について」『中国言語文化研究』第2号
 高橋弥守彦2013b「日中両言語における使役のむすびつき」『日中言語対照研究論集』第15号
 金立鑫2004「“着”“了”“过”時體意義的對立及其句法條件」第

- 七屆國際漢語教學討論會論文集》北京大學出版社
 李臨定1984《現代漢語句型》商務印書館
 李 敏1998「現代漢語主賓互易句的考察」《語言教學與研究》第四期
 李 珊1994《現代漢語被字句研究》北京大學出版社
 刘一之2001《北京話中的“着”(zhe)字新探》北京大學出版社
 吕叔湘主編1984《現代漢語八百詞》商務印書館
 日中対照言語学会2012『日本語と中国語のヴォイス』白帝社
 石毓智2006「論漢語的進行體範疇」《漢語學習》第三期
 時衛国2014a「『V着』と〈Vテイル〉の対照研究」小林賢次 小林千草編2014『日本語史の新視点と現代日本語』勉誠出版
 時衛国2014b「『V着』と〈Vテイル〉の対照研究(二)」『愛知教育大學研究報告』第63輯(人文・社会科学編)
 時衛国2014c「『V着』と〈Vテイル〉の対照研究(三)」『愛知教育大學外國語研究』47号
 王学群2007『中国語の“V着”に関する研究』白帝社
 徐 丹1992「汉语里的“在”与“着”(著)」《中国語文》第六期
 张 黎2012《汉语意合语法研究——基于认知类型和语言逻辑的建构》白帝社

- 日本語
 江田すみれ2013『「ている」「ていた」「ていない」の aspekto』くろしお出版
 奥田靖雄1977「アスペクトの研究をめぐって—金田一的阶段—」『宮城教育大學國語國文』8
 金田一春彦1950「國語動詞の一分類」金田一春彦編1976『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
 工藤真由美1982「シテイル形式の意味記述」武蔵大學『人文學會雜誌』13卷4号
 工藤真由美1995『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房
 小池清治・小林賢次・細川英雄・犬飼 隆編集1997『日本語学キーワード事典』朝倉書店
 小池清治・小林賢次・細川英雄・山口佳也編集2002『日本語表現文型事典』朝倉書店
 砂川有里子1984「〈に受身文〉と〈によって受身文〉」『日本語学』7号明治書院
 寺村秀夫1982・2002『日本語のシンタクスと意味』くろしお出版
 寺村秀夫1982・2003『日本語のシンタクスと意味』IIくろしお出版
 仁田義雄1982「動詞の意味と構文——テンス・アスペクトをめぐって——」『日本語学』1卷2号
 早津恵美子1990「有対他動詞の受身表現について」『日本語学』9卷5号
 藤井 正1976「『動詞+ている』の意味」金田一春彦編1976『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
 吉川武時1976「現代日本語動詞のアスペクトの研究」金田一春彦編1976『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
 吉川妙子2012『日本語動詞テイルのアスペクト』晃洋書房

謝辞

本研究は語彙研究会第95回例会発表会(2013年9月28日(土)愛知学院大学大学院栄サテライト)にて発表した原稿をもとに書き直したものである。当日司会の先生をはじめ、多くの先生の方々が率直な意見を述

べてくださったことに対し、心から感謝の意を表する
次第である。

（2013年11月20日受理）